

古橋宜昌の EX プランニング実践塾 最終10回

■ 前回の課題の確認

まず始めに前回の課題の敷地条件と施主の要望について確認しておきましょう。
北側の坪庭のデザインという課題でした。

おもな施主の要望は

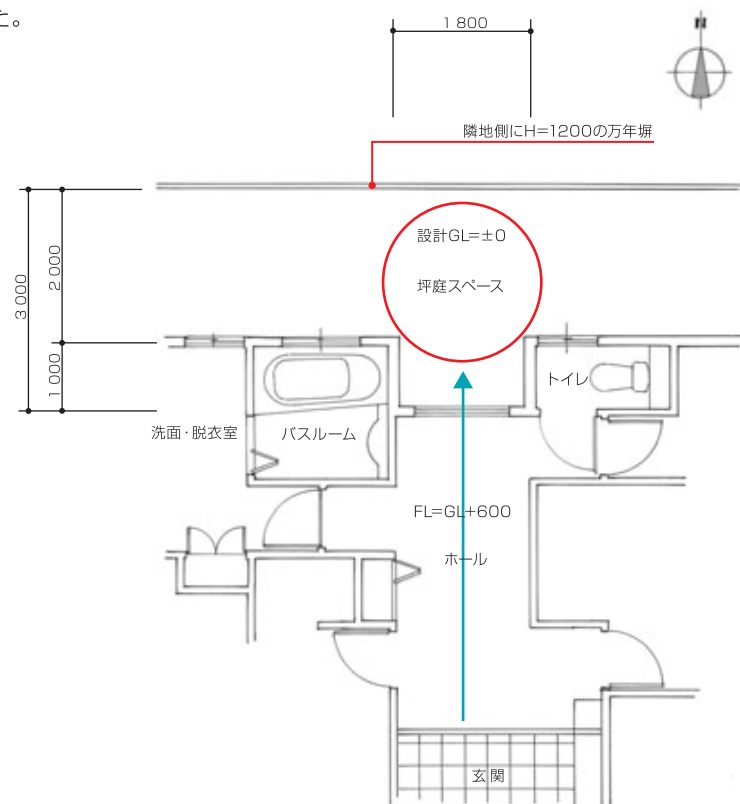
- ・北側の入隅みスペースに坪庭を提案して欲しい
- ・玄関ホール越しに見えるので洋風のデザインを希望
- ・隣のバスルームからの眺めも考慮して欲しい

などでした。

今回は室内から眺める庭をどのように演出するかがポイントとなります。

みなさんはどのようなプランでまとめられましたか？

今回はまず坪庭をデザインする場合に注意していただきたいポイントから解説していくことにしましょう。



■ 坪庭計画のポイント

Point 1: 坪庭は室内からの眺めを最優先に考える

リビング前の使う庭とは異なり、坪庭は眺める庭となります。プランを考える時は敷地の外側からではなく、家の中側から見ているイメージを持ちましょう。

Point 2: バスルーム前の坪庭は外部からの視線もチェック

さらにバスルーム前の庭を考える場合は隣家や道路からの視線もチェックし、プライバシーの保護にも注意を払いましょう。

Point 3: 庭の背景が重要

どんなに庭そのもののデザインが素晴らしくても、その背景である隣地境界の塀などが汚ければ台無しです。また、この背景の素材によって坪庭のイメージも大きく変わるのでその選択はとても重要です。

Point 4: 室内と屋外の一体感を演出

サッシやガラスで隔てられた空間ですが、できる限り室内から眺めて一体感を感じられる演出を心がけましょう。

Furuhashi Norimasa



古橋 宜昌
ふるはし のりまさ

生年月日：1958年4月6日
東京電機大学理工学部建設工学科卒。
有限会社エクスプランニング代表取締役・エクステリア&ガーデンアカデミー東京校学長・
一級建築士・一級造園施工管理技士・一級土木施工管理技士。
JAG日本ガーデンデザイナーズ協会会員・英国王立園芸協会会員・同推奨品認定委員・大手ハウスメーカーのエクステリア部門を経て、
1997年、日本では珍しいエクステリアとガーデンの設計業務を請け負う会社「エクスプランニング」を設立。
個人住宅のエクステリア&ガーデン設計は年間500棟を越え、その設計事例は多くのガーデニング専門誌等で紹介されている。
ホテルオークラで開催されたガーデニングショーでは「イギリス大使夫人の庭」のデザインと施工を担当。設計業務の傍ら専門学校や英国王立園芸協会などのセミナーの講師、デザインコンテストや「TVチャンピオンガーデニング王選手権」の審査員なども務める。

ホームページアドレス <http://explaning.m78.com>

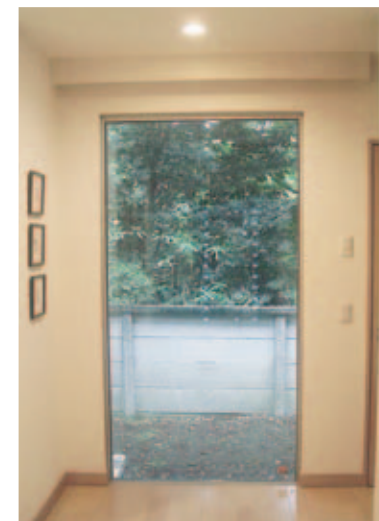
それではさらに坪庭計画の具体的手法をみていくことにしましょう。

Point 1: 坪庭は室内からの眺めを最優先に考える

みなさんはプランニングに入る前に現地調査に行かれ写真を撮られると思いますが、とくに坪庭の部分は室内からの写真を撮る事をお勧めします。左の写真の様に屋外から坪庭部分を撮影すると住宅の基礎や外壁を意識してしましますが、右の写真のように室内から撮影することで、お客様が実際に見るであろうイメージに近い状態でデザインの検討をおこなうことができるのです。特に今回のケースでは隣地境界の万年塀がいかにも目障りであるかがおわかりいただけるかと思います。

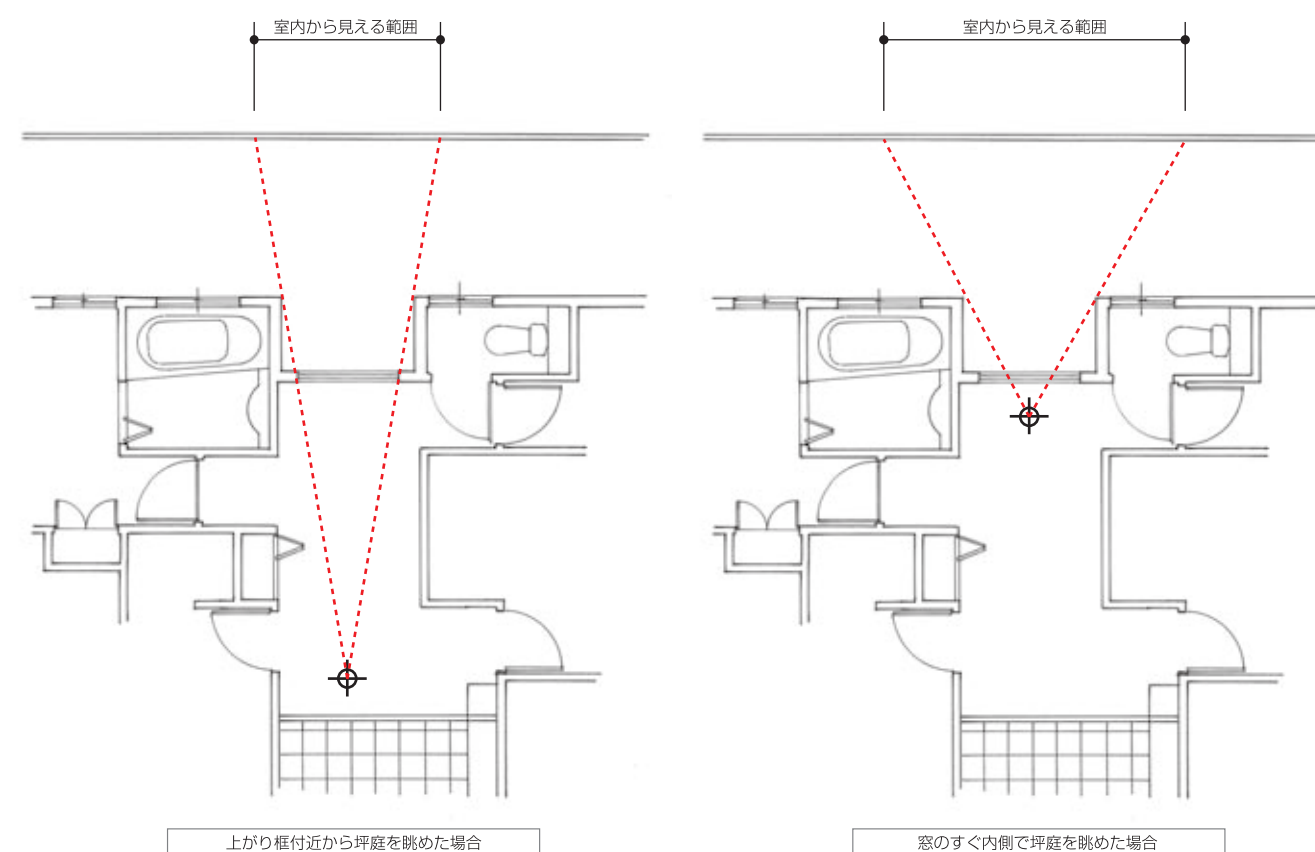


左、屋外から撮影した坪庭スペースの写真



右、室内から撮影した坪庭スペースの写真

もしまだ建築工事が始まっていない場合や、内部に入れない状況の時は、室内から坪庭スペースを眺めた場合、どこまでが視野に入るかを建築の平面図を使って確認することもできます。



上がり框付近から坪庭を眺めた場合

窓のすぐ内側で坪庭を眺めた場合